

マイクロサージェリーが拓く 歯間乳頭再建の予知性

Enhancing the Predictability of Interdental Papilla Reconstruction

—Clinical Application of IPAC and Microsurgery—



川合 宏樹
Hiroki Kawai

KAWAI DENTAL OFFICE

歯間乳頭の欠損によるブラックトライアングルは、審美性のみならず患者満足度にも大きく影響する問題として認識されている。一方で歯間乳頭の再建は解剖学的制約や血流の問題などから予知性が低いとされ、高度な外科的技術を要する治療として位置付けられてきた。

歯科用顕微鏡を用いたマイクロサージェリーの導入により、軟組織の精密な取り扱いと縫合操作が可能となり、歯間乳頭再建においても予知性の向上が期待されている。

本講演では IPAC (Interproximal Pouch Approach using CTG) を用いた歯間乳頭再建について、天然歯—天然歯間および補綴歯—補綴歯間の 2 症例を通して報告する。特に天然歯間では歯牙形態の多様性が歯間乳頭の形態に強く影響するため、術前の形態評価が重要となる。また IPAC において重要な要素である頬側への結合組織移植によるフェノタイプの改善は、海外で報告されている乳頭再建術式にも共通するコンセプトである。

本講演ではこれらの症例を提示するとともに、マイクロスコープを用いた精密な外科操作が歯間乳頭再建の予知性向上にどのように寄与するのかについて考察する。

【略歴】

2015 年 九州大学卒業

2016 年 三井記念病院にて初期研修

2020 年 秋葉原総合歯科クリニック、井原歯科クリニックにて勤務

2023 年 KAWAI DENTAL OFFICE 人形町開業